

将来設計（キャリアプラン） と準備について

卒業直後の希望進路 16

主要な希望進路は「民間企業」と「公務・教育・研究」

「民間企業」 37.8% 「公務・教育・研究」 34.3%

希望進路の選択理由 17

好き、適性、自己成長が3大理由

「好きだから」 36.8% 「自分の適性にあっている」 29.0% 「自己成長が望める」 28.6%

進路の探求 18

大学時代は進路の探求時代

卒業後の志望進路は「大学に入ってから」大きく変化する 1年生：23.7% → 4年生：70.7%

将来の進路への不安 20

不安の理由：自分の能力、志望進路の曖昧さ

No.1 自分の能力に対する不安 20.7% No.2 志望進路を絞りきれない不安 18.3%

将来に向けての準備 21

将来設計への王道は学問・研究への精励

「学問・研究に励む」 48.2% 「留学・語学習得」 23.5%

キャリアセンターの利用 22

キャリアセンターの利用は4年生で急上昇

利用率 3年生：13.3% 4年生：44.1%

インターンシップへの参加 24

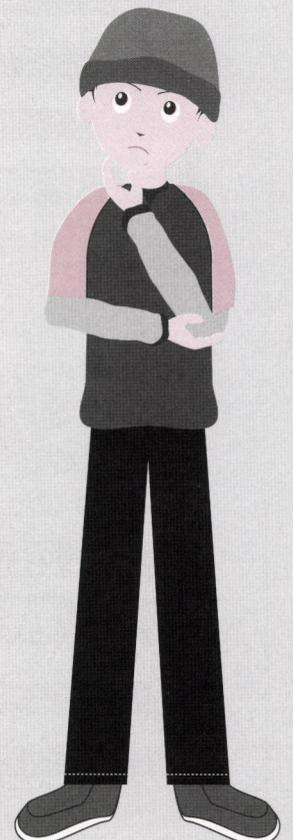
インターンシップへの関心は低学年ほど高い

インターンシップへの参加希望率 1年生：58.5% 4年生：14.2%

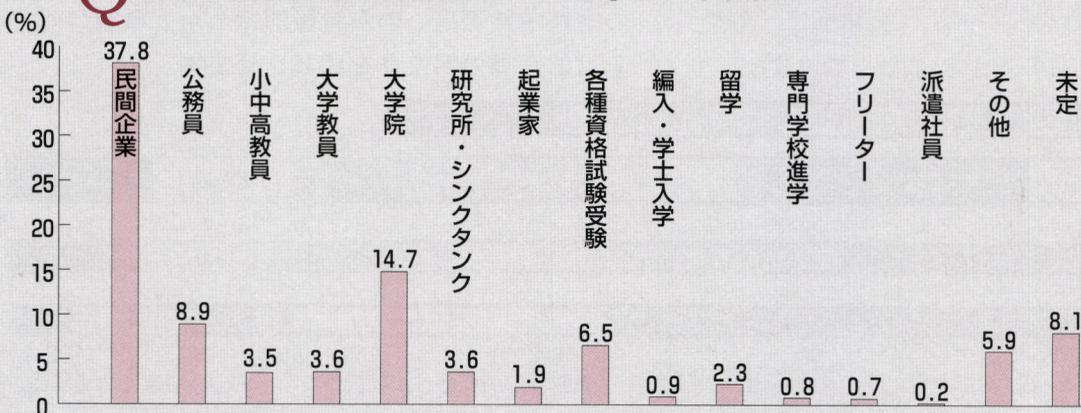
インターンシップ不参加の理由 26

インターンシップについてより有効な情報発信が必要

参加しない3大要因は、「興味がない」 33.6%、「割く時間がない」 32.7%、「どんな制度・受け入れ先があるか知らない」 30.9%



Q 学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？





主要な希望進路は 「民間企業」と「公務・教育・研究」

卒業直後の
希望進路

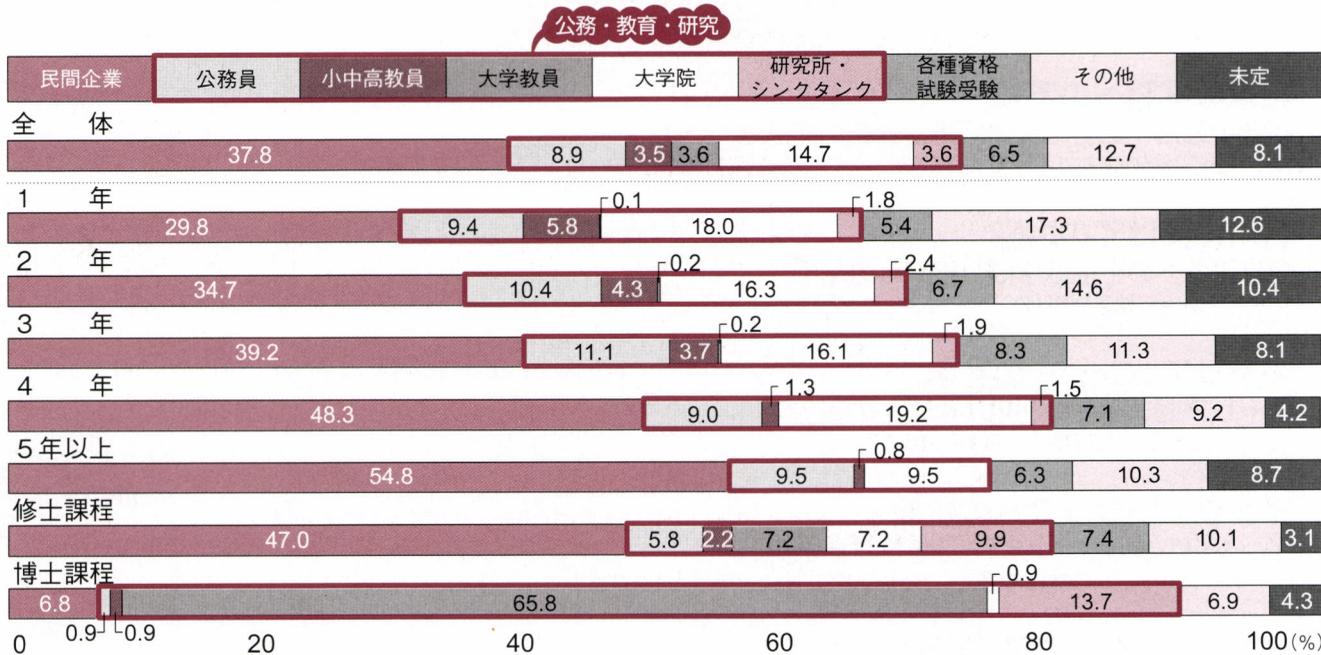


「民間企業」 **37.8%** 「公務・教育・研究」 **34.3%**

卒業直後の進路希望先の傾向は、この3年間を見る限りほとんど変わっていませんでした。「民間企業」への希望が4割弱で最も多く、「公務・教育・研究」に関する進路先が僅差で続きます。学年が上がるにつれて「未定」が減り、「民間企業」への希望者が増えるのも例年の傾向です。そこに

は社会での自立を目指す現実的な自我の成長が読み取れます。大学院も修士課程までは「民間企業」への志向性が高いのですが、博士課程になると「大学教員」や「研究所・シンクタンク」への希望が8割を占めることになります。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 学年別



※回答率の低かった選択肢を「その他」にまとめている。

文系・理系別では、「民間企業」、「大学院」、「研究所・シンクタンク」希望の比率が理系の方で高くなります。特に「大学院」、「研究所・シンクタンク」希望者は文系の2倍以上。一方、「公務員」、「各種資格試験受験」は文系の方が高くなっています。

社会人学生では「大学院」や「研究所・シンクタンク」への希望者、また留学生では「大学教員」、「大学院」、「研究所・シンクタンク」、「起業家」への進路希望が高いのが特徴的でした。職業に対する目的意識の明確さを感じさせます。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 文系・理系別



※回答率の低かった選択肢を「その他」にまとめている。



好き、適性、自己成長が3大理由

希望進路の
選択理由

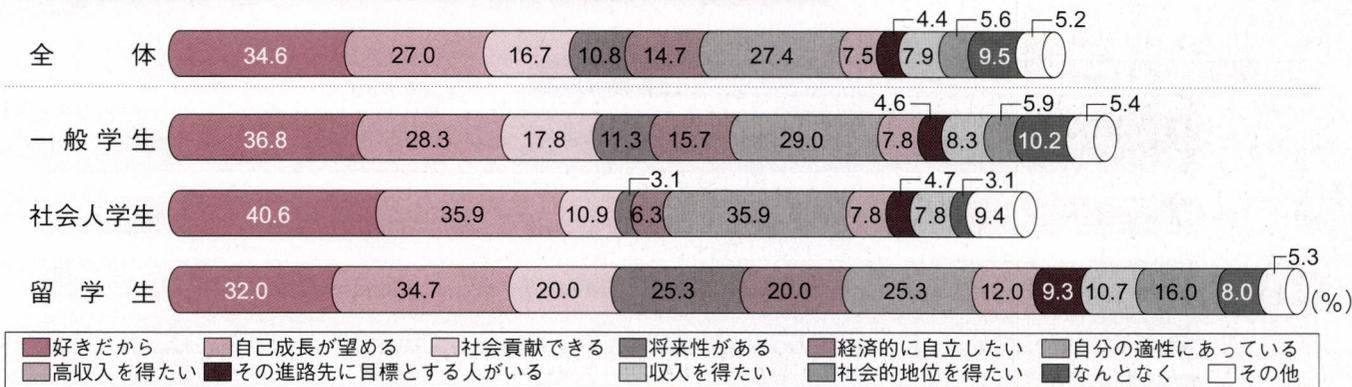


「好きだから」**36.8%** 「自分の適性にあっている」**29.0%**
「自己成長が望める」**28.6%**

進路の決定には、収入や社会的地位より、その進路と自分との適合度や、自分の成長への寄与の度合いが重要なようです。フリーターをしながらでも生活していける豊かな社会に生きる学生にとって、自分らしさを発揮できる仕事を求める気持

ちが強いことが分かります。また、4番目に来るのが「社会貢献できる」進路であることに注目しておきたいと思います。金銭や社会的地位の追求より社会貢献を選ぶところに、学生らしい正義感が感じられるからです。

その進路先を希望する理由は何ですか？ [複数選択可] 学生種類別

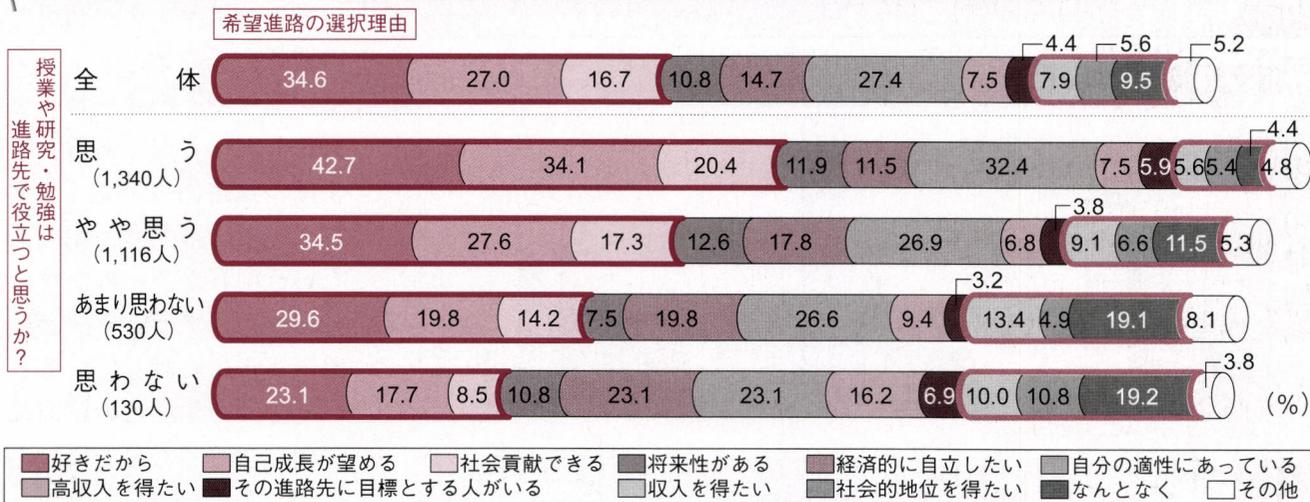


※数値は、縦軸の回答者数のうち、横軸の選択肢を回答した割合。

また、大学での授業や研究・勉強が、将来の進路先で役に立つと思える学生は、そうではない学生より、「好きだから」、「自己成長が望める」、「社会貢献できる」という理由で進路先を選ぼうとしています。逆に、そうは思えない学生は、「取

入を得たい」や「社会的地位を得たい」を選択の理由に挙げやすく、また「なんとなく」という回答も多くなっています。大学での勉学に意義を見いだせる学生は、社会でも自己らしさを実現しようとするのだと思われます。

クロス集計 横軸 その進路先を希望する理由は何ですか？ [複数選択可] / 縦軸 大学での授業や研究・勉強は将来自分の進路先で何らかの役に立つと思いませんか？



※数値は、縦軸の回答者数のうち、横軸の選択肢を回答した割合。



大学時代は進路の探求時代

進路の探求



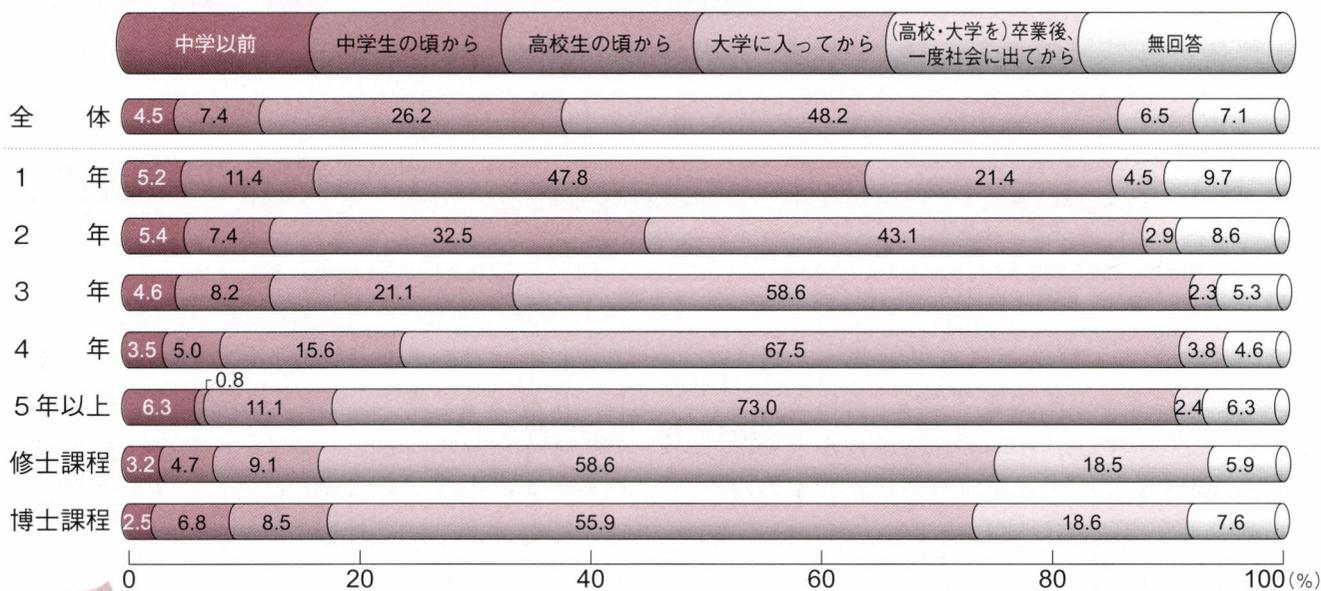
卒業後の志望進路は「大学に入ってから」大きく変化する

1年生：23.7% → 4年生：70.7%

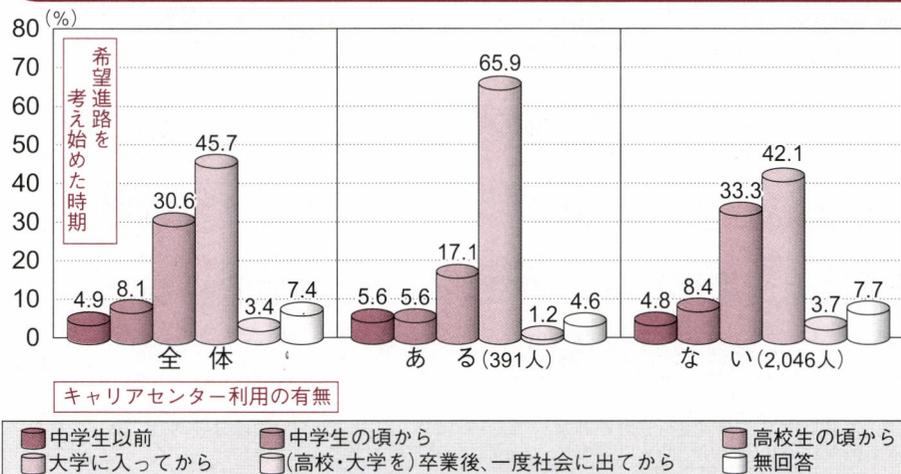
卒業後の進路をどうするかは、学生にとって最も重要な問題です。1年生では「高校生の頃から」考えていた進路が現在の志望進路である者が半数以上を占めますが、学年が上がるにつれて「大学に入ってから」が増加し、4年生の時点では7割以上が「大学に入ってから」と答えています。そこには、大学で新たな知識を身に付け、多彩な友人

との出会いやアルバイトなどでの社会接触をとおして、将来の自分の在り方を模索する学生の姿があります。大学生活は自分を見つめ直し、自分の可能性を探る豊かな時間としての役割を果たしているようです。大学院学生では、「一度社会に出てから」という者が約2割を占め、学部学生とは異なる体験を持つ学生がいることが分かります。

その進路を考え始めたのはいつくらいからですか？* 学年別



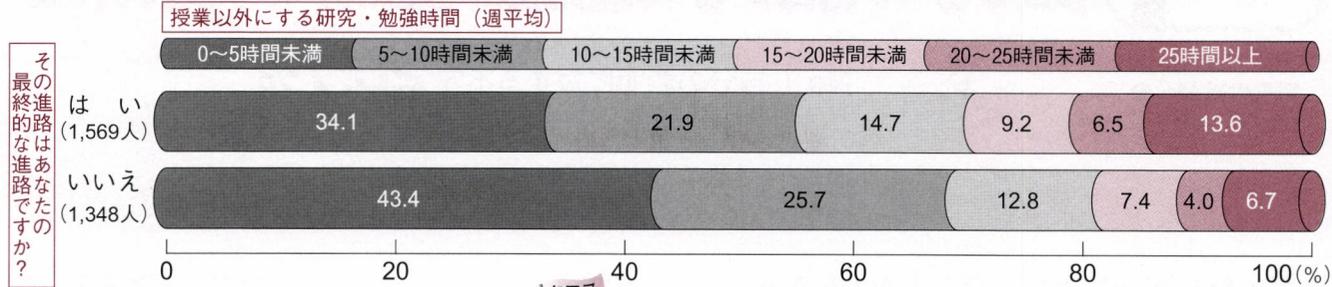
学部 凡例 その進路を考え始めたのはいつくらいからですか？* 横軸 これまであなたはキャリアセンターやそのサービスを利用したことがありますか？



キャリアセンター利用との関係を見ると、キャリアセンターやそのサービスを利用したことが「ある」学生は、進路について「大学に入ってから」考え始めたという回答が多いのが特徴で、キャリアセンターが進路の選択に貢献しているといえそうです。この傾向は大学院学生でも顕著に見られました。

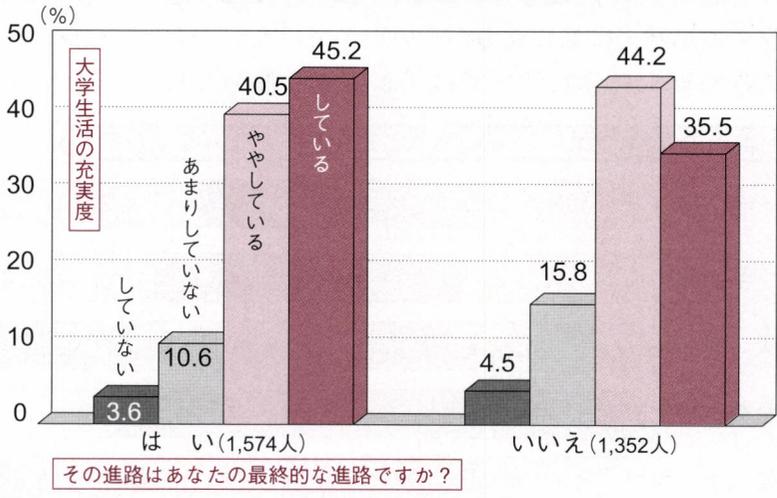
*「無回答」の選択が多かったため、「無回答」選択者を含めて集計。

横軸 自宅・図書館・ダブルスクール等で行う、大学の授業以外にする研究・勉強時間は週平均でどれくらいですか？ 縦軸 その進路はあなたの最終的な進路ですか？
 回答した進路をステップとしてさらに進みたい進路が明確にありますか？



現在考えている卒業後の進路をステップにして、さらに進みたい進路が明確にある学生とない学生はほぼ半々でした。この両群で、大学の授業以外に自宅や図書館、ダブルスクールなどでの研究・勉強時間を比較すると、さらに進みたい進路が明確にある学生の方が勉強時間が長いことが分かりました。また、大学生活の充実度で比較しても、充実度が高い傾向が見られます。自らの進路を肯定的に展望できる学生は、進路探求を能動的に行いながら、自らの目的に向かって日々の生活を充実させている様子が見えます。

凡例 大学生生活は充実していると思いますか？ 横軸 その進路はあなたの最終的な進路ですか？ 回答した進路をステップとしてさらに進みたい進路が明確にありますか？

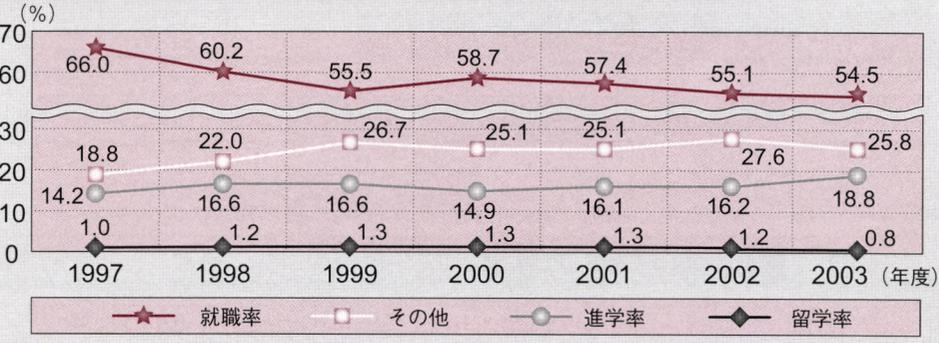


コラム

新卒者の進路を経年で見ると、卒業後すぐに就職する学生は、1997年度から2003年度にかけて10ポイント以上ダウンしています。これに対し、進学や自営、一時的な仕事に就く学生などは増加傾向にあり、進路の多様化をうかがうことができます。ところで、2005年3月卒業予定の大学生に対する求人倍率*は1.37倍ですが、これを企業規模別に見ると、1,000人以上の企業では0.56倍、

1,000人未満では2.53倍と大きな開きがあります（ワークス研究所「第21回ワークス大卒求人倍率調査（2005年卒）」より）。今春、本学では、就職した学生のうち58%がこの1,000人以上の規模の企業へ就職しており、本学学生の健闘が目立つ一方、学生へは一部の有名企業ばかりではなく、幅広く企業全般へ目を向ける必要性も感じられます。
 *求人倍率 = 求人総数 ÷ 民間企業就職希望者数

新卒者(学部・大学院)の進路(対象：進路報告者)(経年変化)



*各年度新卒者のうち、進路報告者の内訳より（キャリアセンター）

※「その他」は、自営・一時的な仕事に就いた者、資格試験準備、元の職に戻る者、進路未記入者等の合計。

■キャリアセンター
 [URL] <http://www.waseda.jp/career/>



不安の理由： 自分の能力、志望進路の曖昧さ

将来の進路への不安

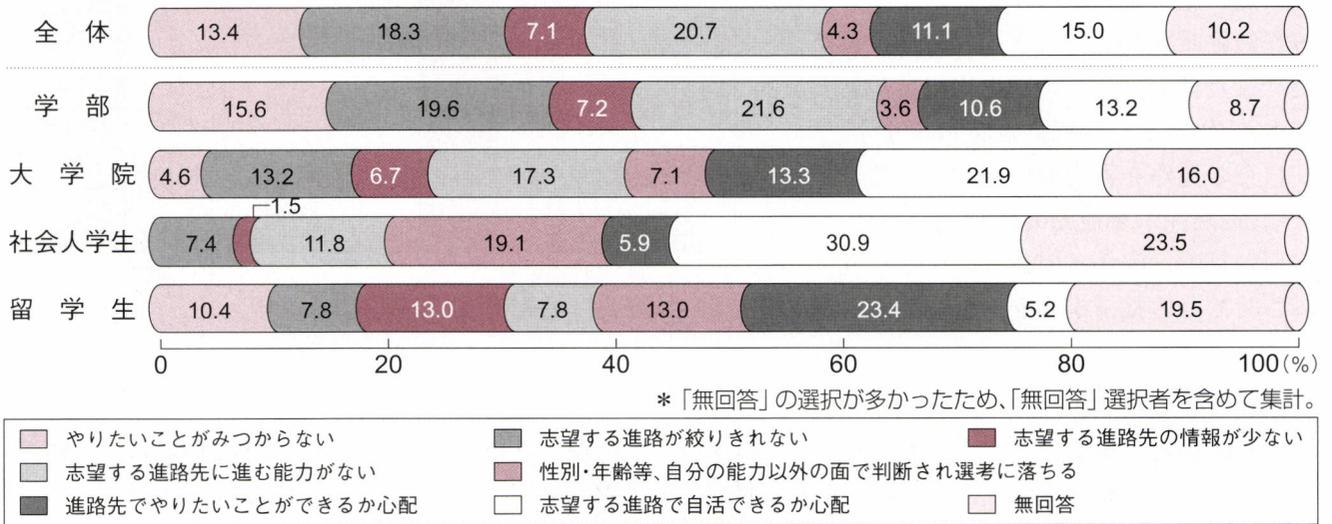


No.1 自分の能力に対する不安 **20.7%**
No.2 志望進路を絞りきれない不安 **18.3%**

将来のことに対しては、誰しもが大なり小なりの不安を持ちます。まして卒業後は、社会人として未知の職業生活に入るので、不安が当然でしょう。最も多いのが、学部学生では「志望する進路先に進む能力がない」のではないかと、大学院学生では「志望する進路で自

活できるか心配」という不安です。社会人学生では、この「自活」に対する不安が大学院学生より高く、また「性別・年齢」での選考に対する不安が高いのも特有な現象です。留学生では「進路先での待遇」への不安が最も高く、特殊な事情を抱えている様子が見られます。

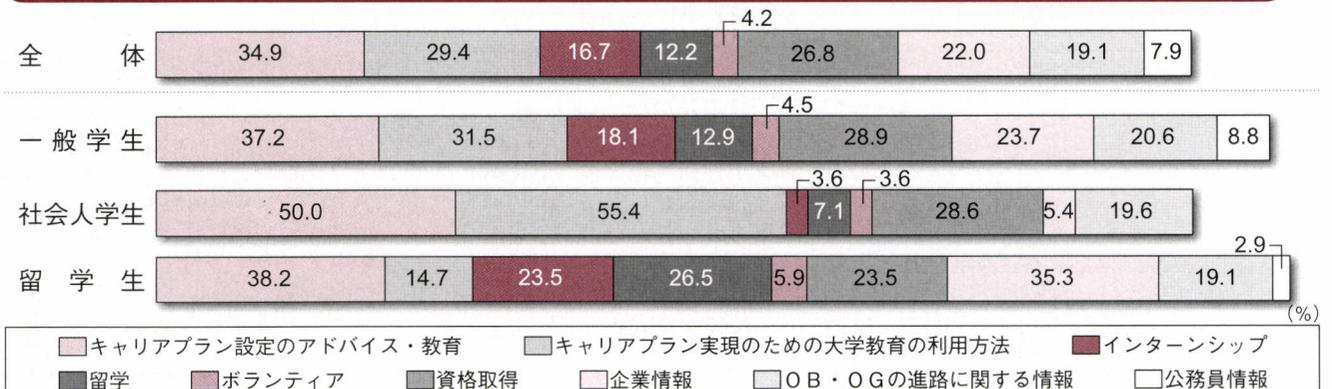
将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？*



将来設計のために大学から提供してほしい情報・サービスについても、学生の種類によって違いがあるようです。キャリアプランの設定に直結する情報に対する要望が高いのは一般学生、社会人学生、留学生に共通ですが、社会人学生ではむ

しろ「キャリアプラン実現に結びつく大学教育」に関する情報を求めています。また留学生では、「企業情報」、「留学」、「インターンシップ」に関する情報提供への希望が高くなっています。

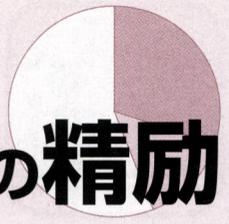
将来設計についてどのような情報サービスを大学から提供して欲しいですか？ [複数選択可] 学生種類別



※数値は、縦軸の回答者数のうち、横軸の選択肢を回答した割合。



将来設計への王道は 学問・研究への精励



将来に向けての
準備



「学問・研究に励む」 **48.2%**

「留学・語学習得」 **23.5%**

将来の設計に向けて、学生はどのような準備をしているのでしょうか。第1位は「学問・研究に励む」で、約半数の学生が挙げています。学生の本分を確実にこなす力は、確かに将来設計への基盤だと思います。ただし、文系と理系ではウェイトのかけ方に違いがあります。理系では「学問・

研究に励む」ウェイトが文系より大きいようです。理系では学問・研究が職業活動に直結しやすいせいでしょう。他方、文系では、「留学・語学習得」や「資格試験対策」といった準備活動も意識されています。

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？ [複数選択可] 文系・理系別



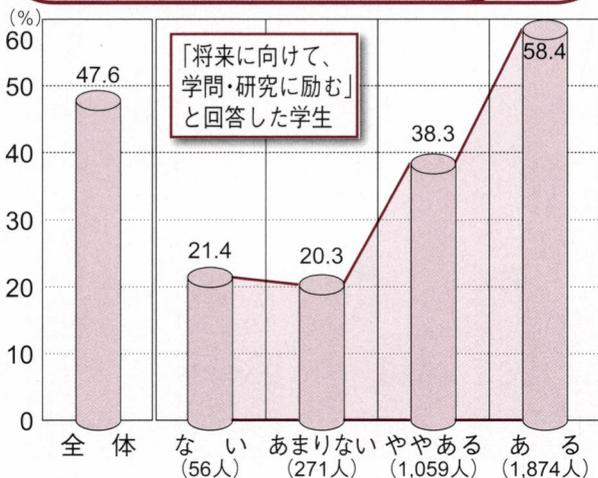
※数値は、縦軸の回答者数のうち、横軸の選択肢を回答した割合。

大学の授業に興味を持つ学生が、将来設計への準備のために「学問・研究」を選択しやすいのは当然でしょう。興味深いのは、自宅や図書館、ダブルスクールなど、大学の授業以外での研究・勉

強の時間が長い学生も、「学問・研究に励む」を選択する比率が高いことです。学生生活を真摯に送る学生には、「学問・研究」と「将来設計」とは切り離せない両輪であるようです。

クロス集計

凡例 将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？ [複数選択可] / 一部抜粋
横軸 大学の授業に興味がありますか？



授業への興味

※数値は、横軸の回答者数のうち、「将来に向けて学問・研究に励む」と回答した割合。

クロス集計

凡例 将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？ [複数選択可] / 横軸 自宅・図書館・ダブルスクール等で行う、大学の授業以外にする研究・勉強時間は週平均でどれくらいですか？ 一部抜粋



授業以外にする研究・勉強時間 (週平均)



キャリアセンターの利用は 4年生で急上昇

キャリアセンター
の利用



利用率

3年生：**13.3%**

4年生：**44.1%**

キャリアセンターには、進路設計に関する多彩なプログラムが用意され、個別相談にも応じています。キャリアセンターの利用の特徴は、1～2年生の利用率は5%程度、3年生でも10%台に留まっていますが、4年生で急増し半数近くの学生が利用するようになることです。学生にとって進路・就職への不安は高いことが知られています。卒業する年度での利用率の急増は当然のことでしょう。

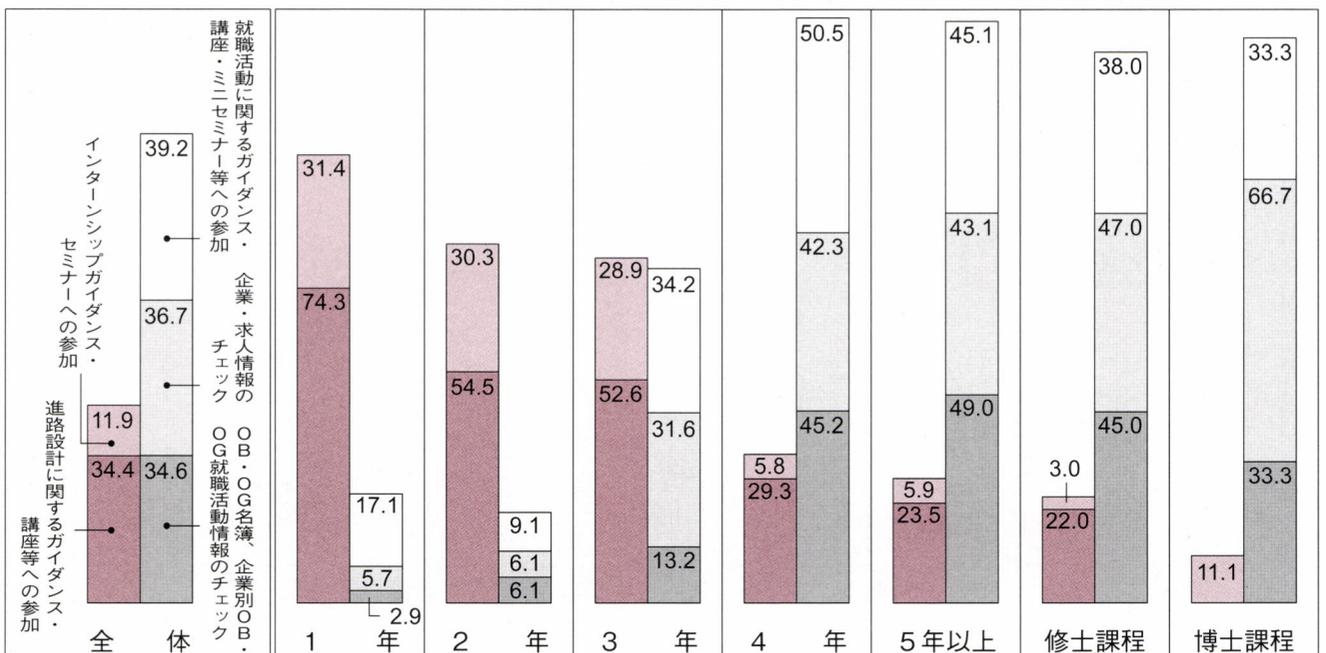
学生はキャリアセンターをどんな目的で利用しているのでしょうか。学生の利用内容は、学年が上がるにつれて顕著に変化します。低学年では、「進路設計に関するガイダンス・講座等への参加」や「インターンシップガイダンス・セミナーへの参加」が主たるものです。進路の選択を考えるデ

ータを収集する段階なのでしょう。高学年では、「就職活動に関するガイダンス・講座・ミニセミナー等への参加」や「企業・求人情報のチェック」、「OB・OG名簿、企業別OB・OG就職活動情報のチェック」が増え、就職に直結するデータに関心が移ります。

これまであなたはキャリアセンターやそのサービスを利用したことがありますか？ 学年別



キャリアセンターやそのサービスを利用したのはどのような内容ですか [複数選択可] 学年別 一部抜粋

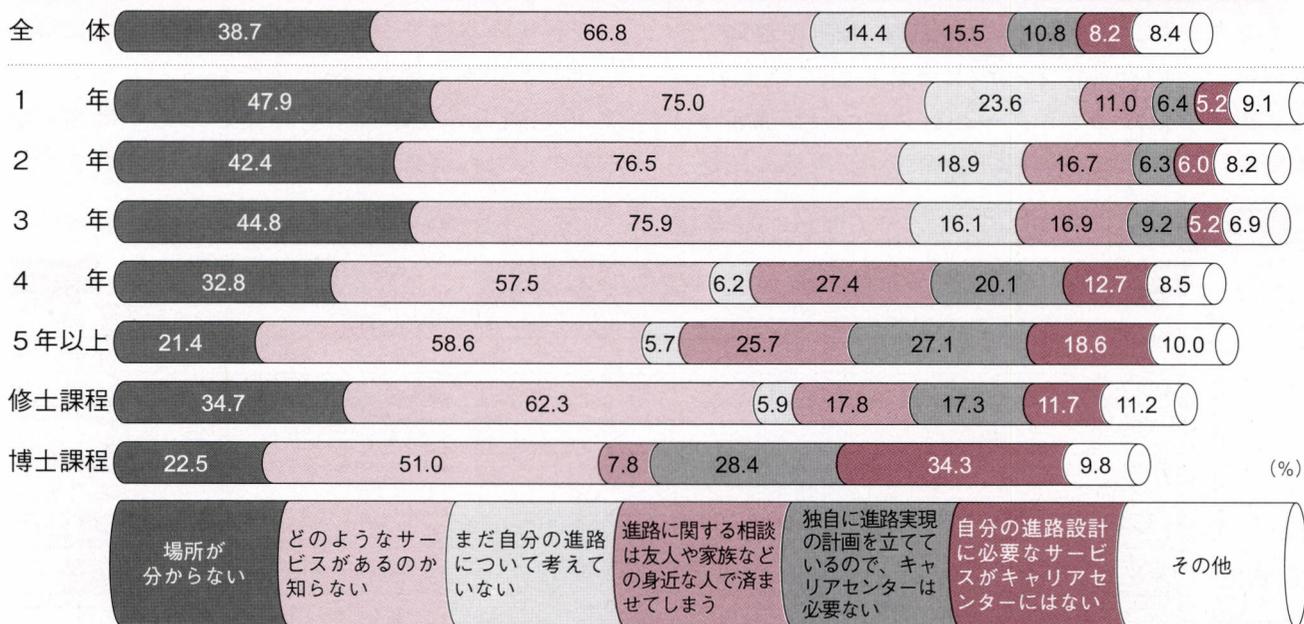


※数値は、横軸の回答者数のうち、縦軸の選択肢を回答した割合。

学生がキャリアセンターを利用しない理由を見てください。利用しなかった学生の4割が「場所が分からない」、「どのようなサービスがあるのか知らない」と答えています。4年生になっても、「場所が分からない」学生が3人に1人います。この数字をどう捉えればよいのでしょうか。キャリアセンターの利用は不必要という学生もいます。

またキャリアセンターのPRに気付かない学生にも責任があるでしょう。しかし同時に、マンモス大学で情報に埋もれる学生に対し、さらに有効なPRを工夫する必要もあります。学生による学内資源の有効利用の向上を意図した施策がさらに必要です。

キャリアセンターやそのサービスを利用しないのはどのような理由からですか [複数選択可] 学年別



※数値は、縦軸の回答者数のうち、横軸の選択肢を回答した割合。

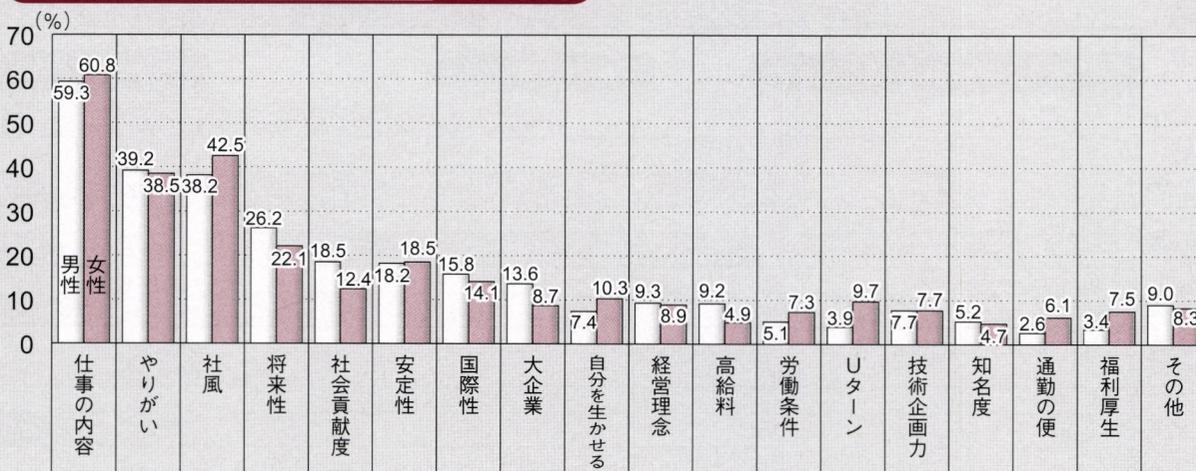
コラム

次のグラフは、1997年度に、当時の就職課（現キャリアセンター）が就職先が内定した4年生に内定先の志望動機を尋ねたものです。

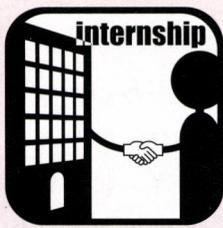
「超氷河期」と呼ばれた当時の厳しい状況の中、毎年上位を占めている「仕事の内容」、

「やりがい」、「社風」は、変わらず高い割合でしたが、「将来性」や「社会貢献度」を考慮する学生が増加してきたことが、当時の分析で指摘されていました。

内定先への志望動機 [複数選択可] 男女別



出典：『1997年度 早稲田大学学生生活白書』



インターンシップへの関心は 低学年ほど高い

インターンシップ
への参加



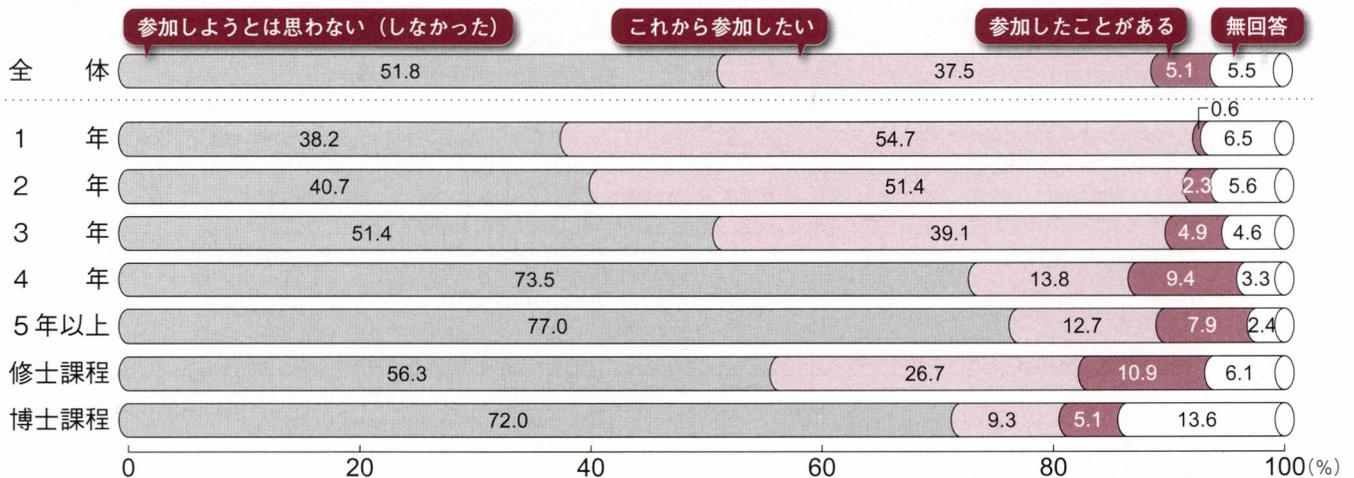
インターンシップへの参加希望率

1年生：**58.5%** 4年生：**14.2%**

インターンシップ制度の活用は、将来の進路の選択に一定の有効性をもつと考えられています。低学年の学生ほどインターンシップへの参加希望が高く、この制度が学生に理解され、次第に浸透

してきている様子が見えてきます。すでに参加したことがある学生は4年生でもっとも多く、ほぼ10人に1人の比率です。今後この比率は高くなるものと思われます。

インターンシップ(学内外のプログラム問わず)に参加したことがありますか？* 学年別

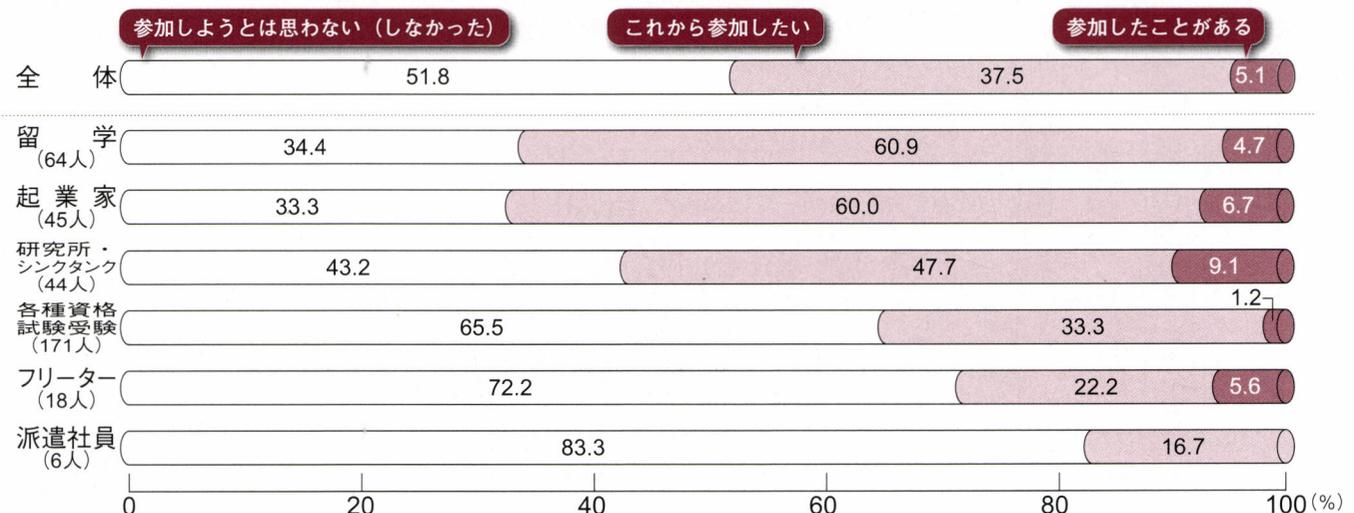


*「無回答」の選択が多かったため、「無回答」選択者を含めて集計。

インターンシップ参加希望と卒業後の進路希望とは関係があるようです。インターンシップ参加希望が最も高い希望進路は、「留学」、「起業家」、「研究所・シンクタンク」です。自らの進路を能

動的に切り拓こうとする意欲を感じます。逆に最も参加希望率が低いのは、「派遣社員」、「フリーター」、「各種資格試験受験」を希望する学生たちです。

学部別 インターンシップ(学内外のプログラム問わず)に参加したことがありますか？ 一部抜粋
縦軸 学部・研究科卒業直後の進路はどうしたいと考えていますか？



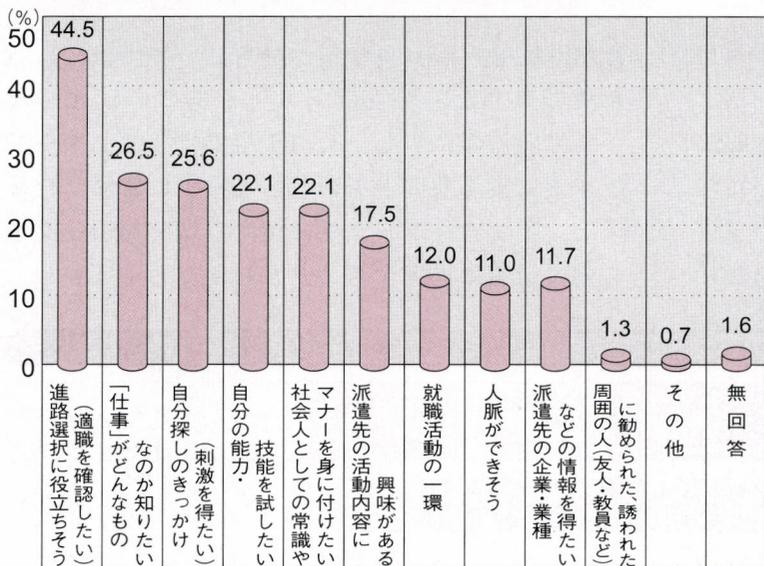
7 インターンシップへの参加

インターンシップに「参加したことがある」、「これから参加したい」を選んだ学生にその理由を尋ねると、最も多いのは「進路選択」に役立つためであり、その次に「仕事」、「自分」、「社会人」を知るという3つが並びます。

実際に行ってみた結果を見ると、「充実していた」が約半数であり、「やや充実していた」までを含めると8割に達しています。非常に多くの学生がインターンシップへの参加に意義を見いだししている様子がうかがえます。

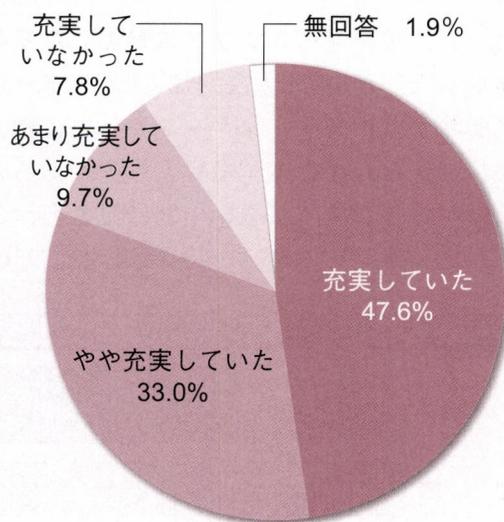
学部

インターンシップに参加した(したい)のはどのような理由からですか？ [複数選択可]



学部

参加したインターンシップは充実していましたか？



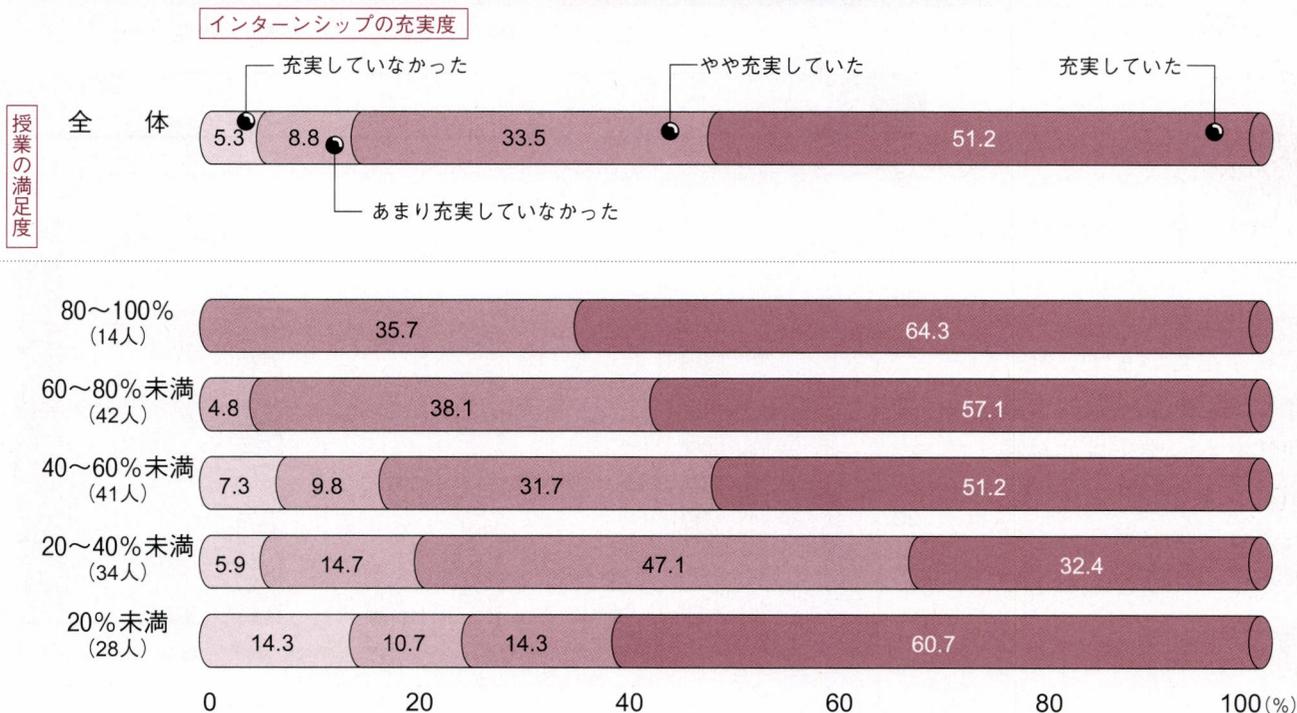
また、大学の授業に対する満足度とインターンシップの充実度との相関をみる集計では、満足度の高い学生はインターンシップの充実度も高い傾向が見られました。

こうした学生は、課題に取り組む動機付け、価値を見いだす感性が豊かなのかもしれません。

クロス集計

横軸 参加したインターンシップは充実していましたか？

縦軸 今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？





インターンシップについて より有効な情報発信が必要

インターンシップ
不参加の理由



参加しない3大要因は、「興味がない」33.6%、「割く時間がない」32.7%、「どんな制度・受け入れ先があるのか知らない」30.9%

一方、インターンシップに参加したくない（しなかった）理由の3大要因は、「インターンシップに興味がない」、「インターンシップに割く時間がない」、「どんな制度・受け入れ先があるのか知らない」でした。これを学年別に見ると、どの学年においてもこれらがトップ3であることに変わり

はありませんが、各学年の最も高い理由は、1、2年生では「どんな受け入れ先があるのか知らない」であるのに対し、3、4年生では「インターンシップに割く時間がない」となっています。今後一層、インターンシップに関する精確なデータを有効に学生に提供することが必要でしょう。

学部 インターンシップに参加したくない（しなかった）のは、どのような理由からですか？ [複数選択可] 学年別

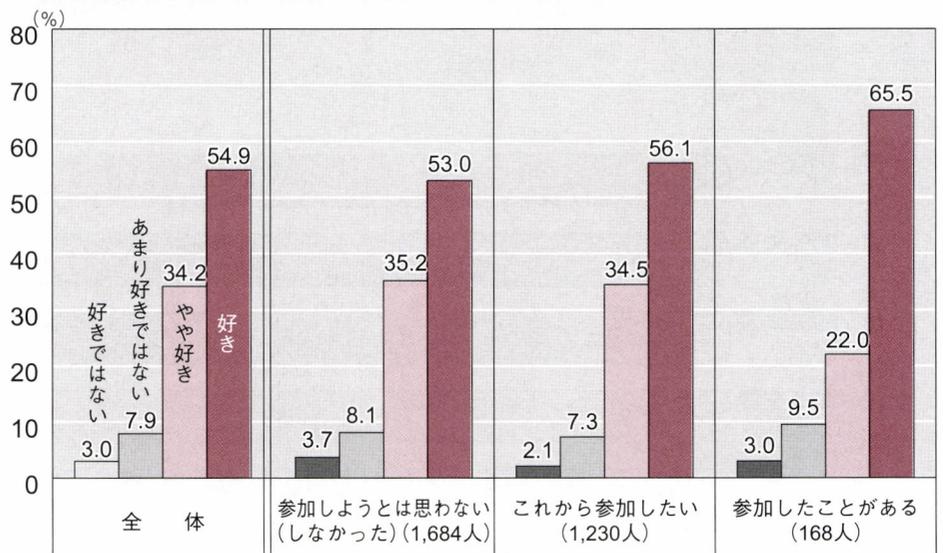
	インターンシップに興味がない	どんな制度・受け入れ先があるのか知らない	インターンシップに割く時間がない	インターンシップが有効だとは思わない	希望職種でのインターンシップがない	どれが自分のキャリアプランに有効かわからない	経費がかかる	その他	
全体	28.8	26.5	28.1	7.3	13.3	13.3	6.4	10.1	
1年	36.6		39.2	27.2	6.9	17.7	13.8	11.2	12.9
2年	37.9		45.4	24.2	8.4	14.1	20.3	8.4	14.1
3年	34.0	25.5		39.4	10.0	10.8	15.4	6.6	8.9
4年	29.1	22.4		36.8	8.3	18.1	12.3	5.5	11.3
5年以上	29.5	19.3		34.1	9.1	18.2	19.3	5.7	12.5

※数値は、縦軸の回答者数のうち、横軸の選択肢を回答した割合。

クロス集計

学部 凡例 早稲田大学が好きですか？ / 横軸 インターンシップ（学内外のプログラム問わず）に参加したことがありますか？

ところで、インターンシップに対して能動的な学生ほど、早稲田大学が好きという結果が出ています。社会での活動に積極的な志向性をもつ学生は、早稲田大学がもつ社会に開かれた雰囲気に関和性を感じやすいのかもしれません。



8 インターンシップ不参加の理由